

安全データシート (SDS)

1 製品及び会社情報

製品の名称

製品名 3M スーパーデューティラビングコンパウンド

会社情報

会社名 株式会社 MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町 2-183 リベル 3 階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX 番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
整理番号 M161228

推奨用途及び使用上の制限

一般工業用途

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分 4

健康に対する有害性

急性毒性（吸入：粉じん／ミスト） 区分 4

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分 2

生殖細胞変異原性 区分 2

発がん性 区分 1

特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 3（気道刺激性、麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分 1（呼吸器）、区分 2（肺、皮膚）

環境に対する有害性

水生環境有害性（急性） 区分 3

水生環境有害性（長期間） 区分 3

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険

可燃性液体

皮膚刺激

吸入すると有害
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による肺、皮膚の障害のおそれ
水生生物に有害
長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急措置]

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

皮膚刺激
吸入すると有害
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による肺、皮膚の障害のおそれ

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
トリポリ (シリカ微結晶)	1317-95-9	-	30-60
水	7732-18-5	-	10-30
ケロシン	8008-20-6	-	10-30
オレイン酸	112-80-1	2-975	1-5
パインオイル	8002-09-3	-	1-5
ニュートラル潤滑油用基油	64741-88-4	-	1-5
ミネラルオイル	64741-89-5	-	< 2
石油留分 (水素処理ライト留分)	64742-47-8	-	< 2
ポリソルベート 80	9005-65-6	8-55	0.1-1.0
ストッダード溶剤	8052-41-3	-	< 0.2

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所へ移動させること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	大量の水と石鹸で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

予想される急性症状

情報なし

遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物（一酸化炭素、二酸化炭素）が発生する可能性がある。
火災による高温下で、容器の圧力上昇や爆発のおそれがある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。
消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。
取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
十分な換気を行うこと。
モーターは発火源となったり、漏出部分での火災や爆発の原因となる可燃性ガスや蒸気が発生させる可能性がある。

漏出部を泡消火剤（水性皮膜形成泡）で覆う。
漏出部をベントナイト、パーミキュライト（土）、無機吸着剤等で覆うこと。十分吸着するまで混ぜ、火花を発生しない工具を用いて密閉容器に回収する。残留物は適切な溶剤できれいにする。
回収容器は密閉し、なるべく早く廃棄する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	この SDS をよく読み理解すること。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。 粉塵、煙、ガス、蒸気、噴霧を吸い込まないこと。 眼、皮膚、衣服に接触させないこと。 容器を接地すること、アースをとること。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
接触回避	混触禁止物質
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 子供の手の届かない所に保管すること。
混触禁止物質	強酸、酸化剤
保管条件	換気のよい冷暗所に保管する。高温物を近づけない。
容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2016)	0.025 mg/m ³ （シリカ-結晶質-α-石英およびクリストバライト）（吸入性粒子） 5 mg/m ³ （鉱物油（金属用切削油を除く）（高純度及び高精製））（インハラブル粒子） 200 mg/m ³ （クロシン、ジェット燃料（トータルハイドロカーボンとして））（エアロゾルに対するばく露が無視できる場合）
----------------------	--

日本産業衛生学会（2015）
100 ppm（ストッダードソルベント）
0.03 mg/m³（吸入性結晶質シリカ）
3 mg/m³（鉱油ミスト）

設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。
高温下や、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。
換気装置がない場合は、呼吸用保護具を使用する。

保護具

呼吸用保護具	必要に応じて保護マスクや濾過式呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	手に接触する恐れがある場合、保護手袋（ニトリルゴム製）を着用する。
眼の保護具	眼に入る恐れがある場合、側板付き保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状態、形状、色など）	液体、乳状液、茶色の粘稠
臭い	油様臭
臭いの閾値	情報なし
pH	7.5-8.5
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	>35℃
引火点	71.1℃（密閉式）
蒸発速度	情報なし
燃焼性	該当しない
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
密度	1.33 g/mL
相対密度	1.33（水=1）
溶解度	水：微溶
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	14,000 - 18 Pa・s
揮発性有機化合物	239 g/L（calculated SCAQMD rule 443.1）
揮発性有機化合物	16 %weight（calculated per CARB title 2）
揮発率	44.2 %weight
揮発性有機化合物（水・溶剤を除く）	367 g/L（calculated SCAQMD rule 443.1）

10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	直射日光を避け、冷暗所に保管する。
混触危険物質	強酸、強酸化剤
危険有害な分解生成物	火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

11 有害性情報

製品の有害性情報

情報なし

成分の有害性情報

トリポリ（シリカ微結晶）

発がん性

本物質単独ばく露による発がん性情報はヒト、実験動物いずれもないが、本物質は結晶質シリカに属する。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

ヒトについては、データは得られていない。実験動物においては、反復投与毒性のデータは得られていない。しかし、本物質は石英と同じく結晶質のシリカの α -石英である。したがって、呼吸器に関しては石英と同様の影響があるものと考えられる。

ケロシン

急性毒性（経口）

ラット LD₅₀>48,000 mg/kg

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ヒトで皮膚への接触により刺激性が認められた。

発がん性

IARC 45（1989）で Jet fuel（kerosene）および Distillate（light）fuel oils がグループ 3 に分類されているが、ACGIH（2001）では kerosene/Jet fuels が A3 に分類されている。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

ヒトばく露例で中枢神経抑制やめまいなどが認められた。マウスを用いた吸入ばく露試験で気道刺激性が認められた。

吸引性呼吸器有害性

ヒトで誤嚥により化学性肺炎をおこす。

オレイン酸

急性毒性（経口）

ラット LD₅₀=57,000 mg/kg

急性毒性（経皮）

モルモット LD₅₀>3,000 mg/kg

パインオイル

急性毒性（経口）

ラット LD₅₀>2,000 mg/kg

急性毒性（経皮）

ウサギ LD₅₀>2,000 mg/kg

ニュートラル潤滑油用基油

急性毒性（経口）

ラット LD₅₀> 5,000 mg/kg

急性毒性（経皮）

ラット LD₅₀> 5,000 mg/kg

急性毒性（吸入：粉じん／ミスト） 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 生殖細胞変異原性	ラット LC ₅₀ = 2.18 mg/L ウサギを用いた試験により、軽度の刺激性と報告がある。 ラットを用いた細胞遺伝学的試験（体細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験）における異常細胞の増加に加え、職業ばく露を受けたヒトの末梢血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察された。
発がん性	IARC（1987 年）により未精製または軽度処理油はグループ 1、高度精製油ではグループ 3 に分類され、ACGIH（2006 年）の提案もほぼ同様の分類と言える。産衛学会（1977 年）では未精製および半精製品として第 1 群に分類されている。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ラットに吸入ばく露した試験により、肺に肉眼的、病理組織学的な急性変化（詳細不明）が用量依存的（1.51～5.05 mg/L）に見られた。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	長年にわたり鉱油、あるいはそのミストのばく露を受けたヒトで肺線維症、脂肪肺炎、肺の脂肪肉芽腫が報告され、また、疫学調査において切削油への職業ばく露により重度の毛嚢炎の発生が報告されている。
吸引性呼吸器有害性	ヒトで鉱油の摂取により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をもたらす。
石油留分（水素処理ライト留分）	
急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ >15,000 mg/kg
急性毒性（経皮）	ウサギ LD ₅₀ >3,160 mg/kg
ミネラルオイル	
急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ >5,000 mg/kg
急性毒性（経皮）	ウサギ LD ₅₀ >5,000 mg/kg
急性毒性（吸入：粉じん/ミスト）	ラット LC ₅₀ >4 mg/L
ポリソルベート 80	
急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ >38,000 mg/kg
ストッダード溶剤	
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギの皮膚に 4 時間適用した試験において中等度の刺激性および軽度の浮腫が認められた。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ラットまたはイヌを用いた吸入ばく露試験において活動性の低下、協調運動性低下、運動失調、振戦、痙攣などの一過性の神経系への影響を示唆する症状が認められた、およびヒトばく露例で頭痛、吐き気、めまいなどの神経系への影響を示唆する症状および鼻の刺激性が認められた。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	モルモットを用いた吸入ばく露試験において肝臓への影響が認められた。ならびにラットを用いた吸入暴ばく試験において精子運動性の低下が認められた。

吸引性呼吸器有害性

炭化水素であって、かつ white spirit の粘性率から算出される 25℃の動粘性率は 0.87-1.94 mm²/s であり 40℃では 20.5mm²/s 以下であると推測されること、さらに誤嚥により化学性肺炎を引き起こす可能性があるとの報告がある。

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

成分の環境影響情報

石油留分（水素処理ライト留分）

水生環境急性有害性	魚類（ブルーギル）96 時間 LC ₅₀ =2.2mg/L
水生環境慢性有害性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

ストッダード溶剤

水生環境急性有害性	甲殻類（オオミジンコ）48 時間 LC ₅₀ =0.42-2.3 mg/L
水生環境慢性有害性	情報なし
残留性・分解性	BOD による分解度：12-13%
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
焼却する場合は、許可を得た焼却処分施設で行うこと。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

海上輸送（IMO の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
IBC コード	該当しない

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

国内規制

陸上規制情報	消防法に従う
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

該当しない

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物（シリカ）（0.1 重量%以上を含有する製剤その他の物）（灯油、鉱油、ミネラルスピリット）（1 重量%以上を含有する製剤その他の物） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（シリカ、灯油、鉱油）（0.1 重量%以上を含有する製剤その他の物）（ミネラルスピリット）（1 重量%以上を含有する製剤その他の物） 第3種有機溶剤等（ミネラルスピリット）（有機溶剤を5
---------	--

消防法	重量%を超えて含有するもの)
海洋汚染防止法	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体 有害液体物質(Y類物質)(オレイン酸、ホワイトスピリット 芳香族系成分の含有量が15重量%以上20重量%以下のものに限る))(X類物質)(パイン油)
じん肺法	法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業(シリカ)粉じん

16 その他の情報

参考文献

株式会社 MonotaRO 提供資料

NITE GHS 分類結果一覧(2016)

日本産業衛生学会(2015) 許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2016) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意下さい。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更して下さい。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。